

\*2月です。新年を迎えて心新たに今年こそ!と一年の計を立てる方が多いと想像しますが、七草、成人式、センター試験、そして大寒と、カレンダーを意識する日が続き、あつという間に節分、立春と2月を迎えます。仕事仲間内でも家庭でも、もう1ヶ月が終わりなのか今年もあと11ヶ月しかない、などと冗談を言う人がいます。日一日、24時間は同じ速度なのに、なぜか1月は短く感じられると思いませんか。面白いことです。

\*今年の冬、東京は殆ど雨が降っていません。ウエザニュースによれば、年明け以降、太平洋側を中心に雨の少ない状態が続いており、この先もしばらくは関東など太平洋側でまとまった降水はあまり見込めず、このままで1月を終えると統計開始以来3番目の少なさとなる予報。となると心配されるのが、インフルエンザと火事です。東京都内で火事が頻発しており、類焼面積も例年に比して大きく、死者も出ています。強い北風も混じる中での火事は、家財だけでなく、気力も思い出も燃やしてしまいます。大火になれば、町中が火の海となります。細心のご注意を。

そして、インフルエンザです。今(2月1日)がピーク時期なのでしょう。1週間前に比して患者数が3倍を超えており、測定開始以来最多数に達しているようです。目に見えない菌との戦いは何とも心もとないものですが、まずはうがい、手洗い、外出時にはマスクをして自衛しましょう。

\*東港金属株式会社は非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物処理を“いつでも”お受け致します。身近なりサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



## 東港金属株式会社

東京都大田区京浜島2-20-4

電話 03-3790-1751

URL <https://www.tokometal.co.jp/>

(見学受付)

電話03-3790-1751 又は 各営業担当



### ☆羅針盤

鉄スクラップ →

考察) 鉄の1月は、指標となる東京製鉄宇都宮工場の特急価格が18日に500円/トン下がり、最終的には31,000円/トン。2月に関しては、トルコの輸出価格が上昇し日本への引合が強まっている事などで下げ止まりと思われま

多少ですが上がるでしょう



銅 →

考察) 1月はLME5,800ドル/トン台、国内銅建値690,000円/トンでスタート、最終的にはLME 6,130ドル/トン台。国内銅建値は 710,000ドル/トンまで上昇しました。2月に関しましては、為替によるところが大きいですが、最大消費国である中国が旧正月に入るため、動きは少ないでしょうが上がると思われま

アルミ →

考察) 1月はLME1,860ドル/トン台スタートし最終的には1,899ドル/トン台でした。2月に関しては、円高であり、格安な輸入塊の原料の入荷予定があり、2次合金メーカーの買い意欲も薄いため、上物裾物ともに下がると思われま



プラスチック →

考察) 中間処理場から先の焼却場、及びRPF製造のサーマルリサイクル場の処分価格の上昇・荷制限・炉休が重なり、非常に厳しい状況が続いております。今後に関しては、品質の悪い廃棄物の行き場所がなくなり、より高度な選別能力が問われることになるでしょう。

予測つかず

1月予測の自己評価

鉄スクラップ ○ アルミ ×  
銅 × プラスチック -

## 鉄・非鉄スクラップ・市況からの2月予測

営業部 Y の考察

### ☆羅針盤

#### POPs条約

(残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約)

POPs条約とは、環境中での残留性が高いPCB、DDT、ダイオキシン等のPOPs(Persistent Organic Pollutants=残留性有機汚染物質)が、人や生物への毒性が高く、長距離移動性が懸念されるため、国際的に協調してPOPsの製造及び使用の廃絶・制限、排出の削減、これらの物質を含む廃棄物等の適正処理等を規定している国際条約です。

加盟国の主要な義務の内容は以下の通りです。

- ・製造・使用、輸出入の原則禁止及び、原則制限
  - ・新規POPsの製造・使用防止のための措置
  - ・非意図的生成物の排出の削減及び廃絶
  - ・ストックパイル(在庫)、廃棄物の適正処理
  - ・PCB含有機器は、2025年迄に使用廃絶、2028年迄に廃液、機器の処理(努力義務)
  - ・適用除外(試験研究、使用中の製品、国別適用除外)
- 2001年5月に条約が採択され、我が国は2002年8月に条約に加入。条約発効後2年以内に条約の義務履行のための国内実施計画を作成して、前述の義務内容について記述しています
- ・POPsの製造・使用・輸出入を防止を目的とした規制のための措置。
  - ・非意図的生成物の排出削減のための行動計画。
  - ・ポリ塩化ビフェニル(PCB)廃絶のための取組。
  - ・ストックパイル及び廃棄物の適正処理等のための取組

POPs条約対象物質として話題となっているPCBについては、本紙でも数回(No.38, 59, 72, 103号)に亘り掲載してまいりましたのでバックナンバーからご覧いただくとして、今回は狭い紙面ですが、ハロゲン系難燃剤について取り上げたいと思います。

まず、難燃剤とは、ウィキペディア(Wikipedia)によれば「プラスチック・ゴム・繊維・紙・木材などの可燃性の素材に添加してそれらを燃えにくくし、あるいは炎が広がらないようにする薬剤。主にハロゲン化合物が用いられる。」とあり、また「家電製品を初めとする電気製品や建材、家庭用品として用いられる素材には、使用環境によって、火災の原因となったり、延焼を助長するものがあり、安全な生活をおくるためには、これを燃えにくくし、かつ健康を害することがないよう、煙や有害物質が出にくくすることが不可欠である。これらの要求に応えるために用いられる薬剤を、総称して難燃剤という。」とあります。

ハロゲン系難燃剤としては臭素系が知られており、家電製品の筐体や自動車の室内内装や家財等々に広範囲に使われておりました。既に規制対象物質の使用は止められておりますが、耐久消費財であることから今後使用済みで廃棄された場合、他の対象物質と同じく、その適正処理の監視がこれから必要になるかも知れません。

参考) 経産省 [http://www.meti.go.jp/policy/chemical\\_management/int/pops.html](http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/int/pops.html)  
環境省 <https://www.env.go.jp/chemi/pops/pamph27/pdf/mat00.pdf>



## 東港金属との出会い

営業部 石川 幸子

初めまして、営業管理課の石川でございます。この度、掲載のお声をかけて頂き、「どうこの時となってしまった」というのが正直な気持ちでした。文章は学生時代からの苦手分野でありまして、皆様楽しんで読んでいただける内容となりますかどうか、しばらくの間お付き合いくださいませ。

さて、東港金属との出会いは、子育てが落ち着いた2009年2月、そろそろ正社員として働こうと考えた私は、当時、タウンワークという求人掲載を見て、東港金属の面接に応募しました。何度か京浜島には足を運んでおりましたので、京浜島までは無事たどり着きましたが、面接場所である事務所が見つからず、辺りを何度も回り、事務所を探していたのを思い出します。何とか現場台貫にたどり着いて現場の方に案内され今の事務所台貫棟(当時は事務所を兼ねていました)に向かいました。

受付には、今では普通ですが茶髪(もしかしたら当時は金髪とでもいっいうのでしょうか)の女性が2名おり、すぐさま、私の気持ちは不安でいっぱいになりましたが、受付のお一人の方はとても綺麗な方で、その後、産休・育休を経て現在職場復帰をし、活躍されているKさんでした。嫌な予感と共に、「この会社大丈夫?」そんな気持ちの中、2階に案内されました。

緊張しながら待っていると、2名の面接官がお見えになり、その内、1名の女子事務員の方は飲み物を飲みながらの面接。私をリラックスさせてくれるためのアクションだったのかもしれませんが、ここで二度目の「この会社大丈夫?」との不安感。

業務内容の説明を聞き、緊張でほとんど頭に入らないまま、20~30分程度でしょうか、面接の時間は過ぎました。当時パソコンが苦手な私はそこを強くアピールし、2~3日中に可否の返事します。との事で帰宅しました。4日目を通じても返事は頂けないまま、他社の面接日が決まった時に採用の返事を頂く事となり、東港金属の入社を決めました。

入社日も決まり、就業にあたり最終確認で面接をして頂いた事務員に電話を入れたところ、またもや曖昧な返答。内容については、皆様のご想像にお任せいたします。ここで三度目の「この会社大丈夫?」との不安感。

決して、自分自身、社会人としてのマナーが十分身についてる訳ではありませんが、三度目ともなると、若干ですが怒りを感じるようになりました。このような不安が入り交じっての、入社日当日。

予感的中となり、制服の準備ができていないとの事で、私服での業務スタートとなりました。

なんとも不安と心細い気持ちから、本編もスタートしてしまいました。

次回へ続きます。